



# スポーツ科学部

## 学部長からの挨拶

学部長  
種田 行男

多くの視点からスポーツ科学を学び、  
これからの時代を生きる力を  
つけよう。

スポーツ科学の  
基礎を身に付け、  
さらに専門性を高めます。

スポーツ科学部の教育目標は「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かに生活できる社会を築く人材」の育成です。スポーツ教育学科では、真の保健体育科教員として「教える」ことができる人材、競技スポーツ科学科ではトップアスリートの競技力を「高める」ことができる人材、トレーナー学科ではベストパフォーマンスの発揮を「支える」ことができる人材、スポーツ健康科学科では子どもから高齢者までの全世代の健康を「つくる」ことができる人材、そしてスポーツマネジメント学科では、スポーツ組織や施設の運営者としてスポーツと社会を「つなぐ」ことができる人材を育成します。

このような人材を育成するために、スポーツ科学部では、哲学、歴史学、心理学、物理学、生物学、医学といったさまざまな学問を基礎にして、体育・スポーツ・身体活動の実践について学びます。従って、どの学科においてもまず基礎をしっかりと勉強することが重要であり、これなしには先には進めません。スポーツ科学の基礎には高校時代において学習した内容も含まれていますので、それらの十分な復習も心がけてください。

### Learning Point



「知識を覚える」のではなく  
「理論を理解する」勉強を  
心がけよう。

スポーツ科学部のいろいろな分野に共通なのは、すべての対象が「人」であるということです。人間を対象としているので、正しい答えは一つとは限りません。たとえば、ある人に有効だったトレーニング方法が他の人は全く効果がないこともあります。どんな場合に何が正しいのか、十分に考慮をしなければなりません。つまり、スポーツ科学をするものは、知識を覚えるのではなく、理論を十分に理解する必要があります。

体力の維持に努めてください。

本学部の教育ではスポーツの実践も重要であると考えています。スポーツの実践によってこそスポーツ科学が活かされてきます。またスポーツによって培われるチームワーク力やコミュニケーション力は、社会において必要とされている社会人基礎力をアップさせます。したがって、大学に入学してからもスポーツ活動に真剣に取り組んで欲しいと願っています。そのために体力維持にも努めてください。